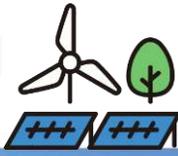


2023年度（R5年度） 環境経営活動レポート

2023年5月 ~ 2024年4月 



目次

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境方針
4. 環境目標
5. 環境実績
6. 環境活動の内容と取組結果およびその評価、次年度の取組
7. 各営業所の環境負荷および取組の状況
8. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無
9. 代表者による全体の評価と見直し
10. 環境活動の状況



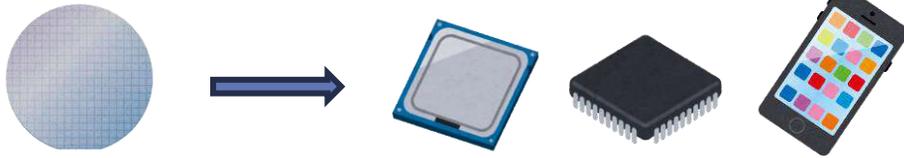
1. 組織の概要

◇ 会社概要

- ・会社名 株式会社ポシブル
- ・代表者 代表取締役 落合 秀人
- ・設立 平成8年 5月
- ・従業員数 77名
- ・資本金 1,000万円
- ・事業内容 光学測定器・光学検査機器・光学部品販売及び開発
半導体製造装置消耗部品 販売
装置部品輸入販売・装置部品輸出
真空装置・真空部品販売・露光装置用水銀ランプ販売
中古装置輸入販売・各種装置老朽化対策
各種装置修理保守改造・設計・開発

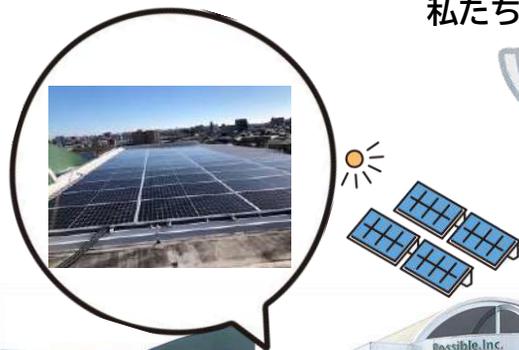


本社・テクニカルセンターMap



半導体製造工場ではウェハと呼ばれる半導体素子を作るための基板から、様々な工程を繰り返し ICや半導体チップ、メモリ、コンピュータやスマートフォン、テレビ、自動車などの私たちの身の回りで必要不可欠な製品が作られています。私たちは、その工場ですでに使われる消耗部品や検査機器等の販売、付帯設備の修理等を承っています。

私たちはLED電灯を採用しています



本社



テクニカルセンター

本社屋上の“ポシブル発電所”では、事務所内の電灯を自社発電でまかなっています
自家消費率が前年度より2%UPしました！更なる自家消費率のUPを目指します！



熊本営業所



福島営業所

◇ 所在地

- ・本社 宮崎県宮崎市大塚町横立1453-6
- ・テクニカルセンター 宮崎県宮崎市大塚町横立1379-1
- ・鹿児島営業所 鹿児島県霧島市国分新町933-13
- ・長崎営業所 長崎県西彼杵郡長与町高田郷3608-8
- ・熊本営業所 熊本県菊池郡菊陽町久保田字下原2818番10
- ・大分営業所 大分県大分市高城本町1番20号 GRC opus takajo 102B
- ・広島営業所 広島県東広島市鏡山3丁目13番26号 広島テクノプラザ305号室
- ・滋賀営業所 滋賀県草津市野路町456-6 コーポ中嶋102
- ・横浜営業所 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-9 新横浜フジカビル602
- ・東京営業所 東京都北区赤羽2丁目45-8 ファーストビル赤羽602
- ・福島営業所 福島県郡山市八山田5丁目175番

◇ 連絡先

TEL:0985-30-4811 FAX:0985-47-1408
info@possible.co.jp

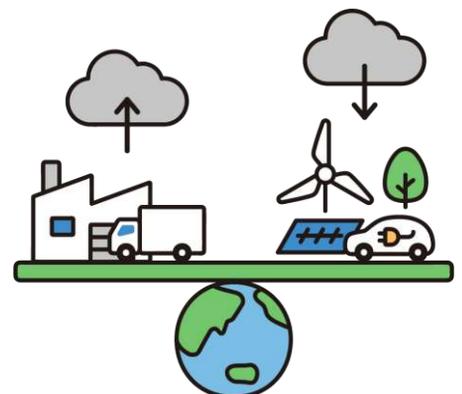
環境管理責任者 井本 康仁
環境管理事務局 芋瀬 裕香

◇ 事業の規模

売上額 40.3 億円 (2023年度)

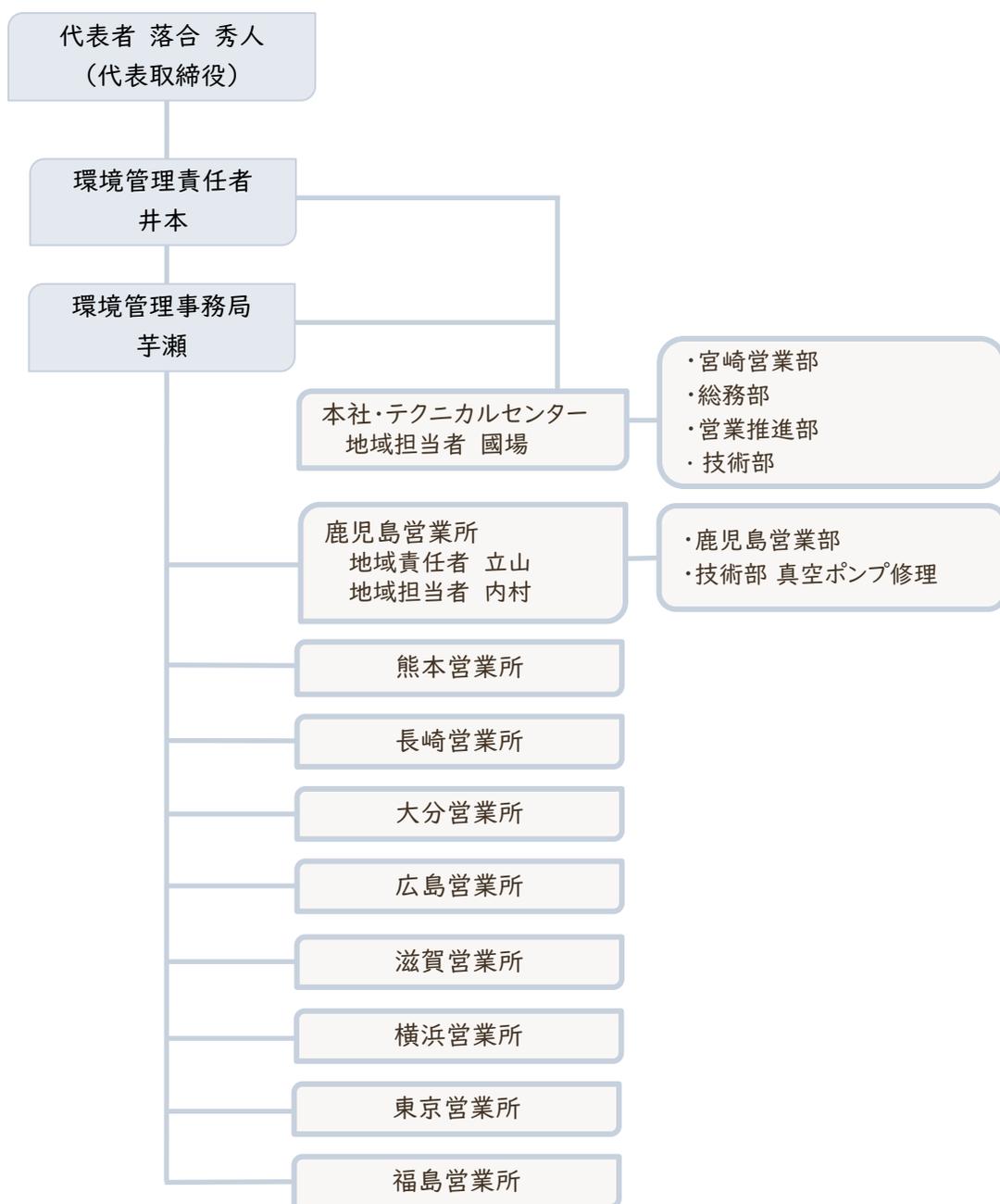
◇ 事業年度

5月1日~4月30日



2. 対象範囲

◇実施体制



◇ 認証・登録の範囲

登録事業所: 株式会社ポシブル
対象事業所: 全組織
活動: 事業内容に関わる全活動



3. 環境経営方針

環境経営理念

株式会社ポシブルは、半導体、電子部品産業の先端設備及び老朽化設備への技術対応を目指し、有意義で価値あるソリューションを提案し続けます。お客様へのコストダウンに貢献できるような販売活動を行う中で更に市場を拡大させ、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境に配慮した事業活動を継続的、自主的、積極的に取り組みます。

環境経営行動指針

- 1 当社は事業活動における環境への影響を考え、環境負荷の低減に取り組みます
- 2 電力・自動車燃料の消費にともなう二酸化炭素排出量の削減に取り組みます
- 3 廃棄物排出量の削減およびリサイクルできるものは分別します
- 4 節水に取り組みます
- 5 社内で必要なものは環境に配慮した物品の購入を推進します
- 6 環境関連法規を遵守します
- 7 事業活動の中で、製品への環境配慮として環境配慮型製品の販売を促進するとともに、老朽化装置の延命対策となる修理・部品供給のサポートを推進します
- 8 地域社会への貢献を行います

制定日：平成27年4月28日

改定日：令和 2年7月 7日

株式会社ポシブル

代表取締役 落合 秀人

4. 環境目標 (全体)

項目	年度別環境目標				
	単位	基準値	2022年度	2023年度	2024年度
電力の 二酸化炭素排出量削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg-CO2)	61,488.7	61,427.0	61,365.7	61,304.2
自動車燃料・LPGの 二酸化炭素排出量削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg-CO2)	78,305.1	78,226.8	78,148.5	78,070.2
一般廃棄物の削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg)	1,189.3	1,188.1	1,186.9	1,185.7
産業廃棄物の削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg)	15,828.1	15,812.3	15,796.4	15,780.6
節水	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(m ³)	438	437.6	437.1	436.7
製品への環境配慮	向上率(%)	-	1.0	2.0	3.0
	(万円)	7,927.0	8,006.3	8,085.6	8,164.9

2021年度を基準としています。

二酸化炭素排出係数は0.406 t-CO₂/kWhです。(九州電力)

横浜営業所および大分営業所は他テナントと水道ので個別メーターがない為水道使用の計測が不可能な環境で対象外となっています。

化学物質 (PRTR制度対象物質) の使用、購入、保管、移動ともありません。

5. 環境実績 (全体)

方針	項目	単位	目標値	実績	達成率	判定
			2023年度		%	
二酸化炭素排出量 の削減	電力の二酸化炭素 排出量削減	(kg-CO ₂)	61,365.7	63,031.5	97.4	×
	自動車燃料・LPGの 二酸化炭素排出量削減	(kg-CO ₂)	78,148.5	83,904.1	93.1	×
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	(Kg)	1,186.9	1,452.1	81.7	×
	産業廃棄物の削減	(Kg)	15,796.4	17,201.6	91.8	×
節水	節水	(m ³)	437.1	434.0	100.7	○
製品への環境配慮	老朽化対策対象品の販売促進 環境配慮型製品の販売促進	(万円)	8,085.6	8,141.9	100.7	○

2021年度を基準としています。二酸化炭素排出係数は0.406 t-CO₂/kWhです。(九州電力)
滋賀営業所を含めた全営業所の二酸化炭素排出量は 149,557.2 kg-Co₂です。

6. 環境活動の内容と取組結果および評価、次年度の取組

◆ 本社・テクニカルセンター

取組活動	担当	評価	取組結果	今後の取組
■ 電力のCO2排出量の削減				
設備管理以外の使用していない空調の停止	全員	○	徹底できた	引き続き継続
事務所空調温度の適正化と表示（夏27℃、冬22℃）	全員	○	徹底できた。扇風機をうまく活用した。	引き続き継続
照明の不要時消灯	全員	○	徹底できた	引き続き継続
太陽光パネルの設置による自家発電量の確認と周知	芋瀬	○	対応できた。周知できた。	引き続き継続
ウォームビズ・クールビズの推奨	全員	○	徹底できた。 ドライ素材の涼しいポロシャツを導入した。	引き続き継続
■ 自動車燃料・LPGの二酸化炭素削減				
エコドライブの徹底	全員	○	徹底できた	引き続き継続
可能な限り乗り合わせて行動	全員	○	徹底できた	引き続き継続
不要な荷物をおろす	全員	○	徹底できた	引き続き継続
急発進、急加速の禁止	全員	○	呼びかけし、徹底した	引き続き継続
夏場の給湯利用は最低限(LPG)	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 一般廃棄物の削減				
裏紙の利用	全員	○	徹底できた	引き続き継続
廃棄物分別の徹底	全員	○	徹底できた	引き続き継続
コピー時の設定確認(両面印刷・用紙設定)	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 産業廃棄物の削減				
通い箱の活用	全員	○	通い箱明記をし徹底した	引き続き継続
梱包材の再利用(緩衝材など)	全員	○	再利用コーナーをつくり、徹底できた	引き続き継続
産業廃棄物は電子マニフェストにて確実に実施	各担当	○	徹底できた	引き続き継続
トナーカートリッジのリサイクル	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 節水				
日常的な節水の励行	全員	○	徹底できた	引き続き継続
節水の呼びかけ	全員	○	徹底できた	引き続き継続
除湿機の水を植木や水撒きに再利用	各担当	○	徹底できた	引き続き継続
■ 製品への環境配慮				
老朽化装置のサービス・部品供給による装置延命化	営業	○	徹底できた	引き続き継続
LED製品等の環境配慮型製品の販売	営業	○	徹底できた	引き続き継続
■ 化学物質の使用管理				
適切に化学物質を管理し保管する	芋瀬	○	徹底できた	引き続き継続
■ 環境整備活動				
事務所周辺の環境整備活動を実施	全員	○	環境整備を予定通り実施できた	引き続き継続
ポシブル農園による緑化活動	T/C	○	徹底できた。今年も緑化活動が盛んにできた。	引き続き継続

※ 次年度の環境目標は前項「4. 環境目標（全体）」2024年度 と致します。

6. 環境活動の内容と取組結果および評価、次年度の取組

◆ 鹿児島営業所

取組活動	担当	評価	取組結果	今後の取組
■ 電力のCO2排出量の削減				
設備管理以外の使用していない空調の停止	全員	○	徹底できた	引き続き継続
事務所空調温度の適正化と表示（夏27℃、冬23℃）	全員	○	徹底できた	引き続き継続
事務所・倉庫などの照明は不要時消灯	全員	○	徹底できた	引き続き継続
ウォームビズ・クールビズの推奨	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 自動車燃料・LPGの二酸化炭素削減				
エコドライブの徹底	全員	○	徹底できた	引き続き継続
可能な限り乗り合わせて行動	全員	○	徹底できた	引き続き継続
不要な荷物をおろす	全員	○	徹底できた	引き続き継続
急発進、急加速の禁止	全員	○	徹底できた	引き続き継続
夏場の給湯利用は最低限(LPG)	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 一般廃棄物の削減				
裏紙の利用	全員	○	徹底できた	引き続き継続
廃棄物分別の徹底	全員	○	徹底できた	引き続き継続
コピー時の設定確認(両面印刷・用紙設定)	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 産業廃棄物の削減				
通い箱の活用	全員	○	徹底できた	引き続き継続
梱包材の再活用(緩衝材など)	全員	○	徹底できた	引き続き継続
産業廃棄物は電子マニフェストにて確実に実施	内村(綾)	○	徹底できた	引き続き継続
トナーカートリッジのリサイクル	全員	○	徹底できた	引き続き継続
■ 節水				
日常的な節水の励行	全員	○	徹底できた	引き続き継続
節水の呼びかけ	全員	○	徹底できた	引き続き継続
除湿機の水を植木や水撒きに再利用	各担当	○	徹底できた	引き続き継続
■ 製品への環境配慮				
老朽化装置のサービス・部品供給による装置延命化	営業	○	徹底できた	引き続き継続
LED製品等の環境配慮型製品の販売	営業	○	徹底できた	引き続き継続
■ 化学物質の使用管理				
適切に化学物質を管理し保管する	青木	○	徹底できた	引き続き継続
■ 環境整備活動				
事務所周辺の環境整備活動を実施	全員	○	徹底できた	引き続き継続

※ 次年度の環境目標は前項「4. 環境目標（全体）」2024年度 と致します。

7. 各営業所の環境負荷および取組の状況

営業所	面積(m ²)	人数	環境負荷					
			電気 (kg-CO ₂)	水道 (m ³)	LPG (kg-CO ₂)	ガソリン・ 軽油 (kg-CO ₂)	一般廃棄物 (kg)	産業廃棄物 (kg)
本社(T/C含)	886.0	24	21,305.3	199.0	72.0	27,208.0	503.5	812.1
鹿児島	538.8	5	26,273.1	106.0	9.9	6,587.5	312.0	15,750.0
熊本	178.7	4	2,396.2	16.0	-	9,177.2	112.4	-
大分	72.7	2	1,185.5	計測不可	-	3,564.4	51.2	14.5
長崎	110.3	6	2,194.0	46.0	-	9,665.8	154.4	95.0
広島	102.2	16	2,349.9	3.0	-	9,732.2	151.6	530.0
滋賀	43.9	2	1,576.1	5.5	-	1,045.6	14.0	5.5
東京	59	4	1,624.0	40.0	-	2,344.5	48.4	-
横浜	81	3	3,148.5	計測不可	-	-	71.1	-
福島	164.1	4	2,555.0	24.0	2.4	15,540.2	47.5	-

※1 横浜・大分の水道使用料はビルによる一括数値管理のため数値把握ができませんが、環境活動は行っています。

■ 取組の状況と評価

熊 本 営 業 所

電気使用量が前年度より7%増える結果となりました。原因は温暖化の影響だと思いますがエアコンを切っただけで過ごす期間が短かったことや階段の電気の消し忘れが増えたことだと思います。消し忘れがないように呼びかけていきます。

ガソリン使用料は、車両が1台増えたこと、県外へ営業活動することが増えたので前年度より17%増える結果となりました。社用車を使用する方にエコ運転に努めていただくようお願いしました。

一般廃棄物は、分別を徹底して行ってまいりましたが人員が増えたこともあり前年度より9%増える結果となりました。次年度は、これ以上に増えないように再度 分別を徹底していきたいと思えます。

水使用量は、節水対応のトイレ等を使用している為、人員が増えても大幅に増えることがありませんでした。来年度も営業所全員でエコアクション活動の目標を達成できるように協力して活動に取り組んでまいります。

長 崎 営 業 所

引き続き、省エネ、ごみの減量、環境配慮製品の販売促進に努める。

8月から所属人数が基準年に比べ4名(9月から5名)から6名に増加し、営業車台数も2台増えたため、ガソリン使用量、一般廃棄物の排出量が増加してしまい、なかなか人数が少なかった基準を下回る成果は出せなかった。使い捨てのものをやめる、コーヒー殻などを乾燥させてから捨てる等の対策を2月より行い、月ごとの排出量は基準年に近い量に減ってきている。産業廃棄物については、梱包の仕方を見直したりして、改善を行った為、大幅に減らすことができた。節電については、節電努力に加え、省エネ製品への買い替えなど行った為、十分な成果が得られた。

大 分 営 業 所

2023年12月より営業テリトリーを分けたことで乗り合わせは減ったものの、引き続き乗り合わせを積極的におこない、ガソリン排出減に努めていきたい。また、段ボールの再利用についてはより一層意識しており、廃棄することはほとんどなく再利用することができた。客先納入の際は引き続き段ボールと緩衝材について再利用をおこないたい。廃棄物についてもマイボトルを使用するなど可能な限りプラスチックなどの廃棄物の削減に努めることができた。今後も同じように可能な限りの環境配慮を意識した運営をおこなっていきたい。

広 島 営 業 所

お客様の工場で仕事を行うメンバーがほとんどで営業所で通常過ごす人員は約4名です。所員に環境負荷低減の意識が高まって行動できました。製品への環境配慮について営業力を上げ、今後はより売上を増やしていきたいと思えます。

滋 賀 営 業 所

事務所内での環境側面は、廃棄物と二酸化炭素排出削減が主となります。下半期は廃棄物の削減に努めました。事業用ゴミの排出削減に向けて、廃棄物の契約見直しを行い、毎週回収の契約からスポット契約(約月2回)に変更しました。実態と合った活動ができたことで、経費の削減にもつながりました。来期は出荷時の簡易包装の努力をしたいと考えています。

■ 取組の状況と評価

横 浜 営 業 所

電力使用量が増えているので消費電力の削減の活動を継続的に行った。 unnecessaryな室内灯の点灯もなく、昼食時など不要な際は消灯を心掛けた。空調以外には削減に繋がるものが少ない為、室温の確認、調整など節電にも心掛けた。その他については社用車の利用もなく、水道の使用もほぼなく、裏紙使用や段ボールの再使用も実施するなど意識付けが出来ている。

東 京 営 業 所

事務所では所員全員で節電、節水、紙の再利用など省エネを意識し、エコ活動への取り組みを行いました。また、社用車で遠方に出かける際は不要な荷物の積み下ろす等、エコドライブを心掛けました。来年度も所員それぞれが省エネを意識しエコアクション活動を取り組んでいきたいと思ひます。

福 島 営 業 所

この一年間を通して、全体的には所員各自が、活動目標を意識しながら省エネ、エコへの取り組みが出来ていたと思ひます。また、営業車の運転についても事故なく安全に効率よい営業ルートを各自考えて、活動しておりました。ただ一般ごみなどは、今年はいそろえる物などが多かった為、それに不随するゴミが若干多かったかと思ひます。段ボールや緩衝材などは極力再利用を心がけるなど工夫していきたいと思ひます。

8. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果 違反、訴訟等の有無

適用される関連法規等の遵守状況

法律名	内容	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物の委託処理	遵守
	廃棄物の処理(社内保管)	遵守
家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出	遵守
小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器の排出	遵守
騒音規制法	騒音施設の届け出	遵守
振動規制法	特定施設	対象外
フロン排出抑制法	機器の所有者(管理者)によるフロン漏えい点検	遵守
浄化槽法	浄化槽(合併処理浄化槽)	遵守
水質汚濁防止法	有害物質を含む液状のものを貯蔵する施設の届出	遵守
宮崎市公害防止条例	騒音施設の届け出	遵守

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

9. 代表者による全体評価と見直し

2023年度の増えた環境負荷項目としては、福島営業所がLED採用の広い建物に移転し、社員数増加に伴って営業車台数も増え、数値目標は未達項目が多く厳しい結果となった。一方では売上額に対する負荷値を比較すると良い数値が得られており、環境活動は行えたと判断できる。環境配慮型の車両を積極的に採用しており本社屋上には太陽光パネルを設置、再生可能エネルギーを活用したCO₂削減も環境負荷を減らす一因になった。
来年度も継続的な環境活動を行いより良い環境実績を出せるよう全社で取り組む。

10. 環境活動の状況

北から南まで全国に11拠点 営業所や修理を行う拠点を構え、それぞれ気候や風土も異なっていますが 各営業所毎に工夫をして環境活動の取り組みを行いました。
営業活動が活発に行えるようになり、人員も増え、営業の事務所滞在時間が減った拠点では必然と電力や水の使用が減り、燃費の使用が増えました。その反面、営業所の移転等や物流の増加により一般廃棄物、産業廃棄物の量も増加しましたが業績の状況からは基準年度よりも営業活動が活発に行っている事も確認できていて、環境活動が行えていると実感できました。
来年度も引き続き環境活動を進めて参ります。

■ 環境活動

会社周辺の環境整備活動を行いました

▶ 鹿児島



▶ 宮崎

テクニカルセンターから本社までの約100M程度の歩道の除草と掃除を行いました



整備後



恒例 ポシブル農園

